魔王の愛妻は愛されないの漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	魔王の愛妻は愛されないの漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	魔王の愛妻は愛されないを読んだことのある20代～50代の男女48名
調査期間	2025年4月12日～2025年4月14日 2025年5月14日 2025年6月6日 2025年7月4日 2025年8月1日 2025年9月5日 2025年10月3日 2025年11月7日 2025年12月5日 2026年1月2日 2026年2月6日 2026年3月6日 2026年4月3日 2026年5月1日 2026年6月5日 2026年7月3日 2026年8月21日 2026年9月18日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/maounoaisaihaaisrenai/

■アンケート項目

Q1：年代と性別を教えて下さい。
Q2：魔王の愛妻は愛されないを実際に読んだ感想を教えて下さい。

Q1：年代と性別を教えて下さい。

20代男性	1人
20代女性	0人
30代男性	10人

30代女性	0人
40代男性	3人
40代女性	8人
50代男性	27人
50代女性	0人

Q2：魔王の愛妻は愛されないを実際に読んだ感想を教えて下さい。

1話感想

王女エステルと王妃カタリナの違いに驚きました。カタリナはこの期に及んで私利私欲の為に動いているのに対し、エステルは腹をくくって魔族と人間の友好関係構築の為に魔族の王ギルに嫁ぐと決意しました。人間性の違いが出ているなあって感じました。ただ残念なことに、魔王ギルはエステルを女性として愛するというよりは、コマの一つとして見ている模様。このままだと結婚生活は不幸せなものになるでしょうし、どうにかならないかなって感じました。
王女が敵対していた相手へ嫁ぐという設定のストーリーだと、自国では虐げられていたのが敵国では一変して溺愛されるようになるパターンが昨今は多い印象ですが、本作のヒロイン・エステルは王妃以外には特に疎まれておらず、嫁ぎ先で歓迎してもらえないというパターンなので、先の展開が読めず興味を惹かれました。ギルとエステルの関係がどう変化していくのか、続きが楽しみです。
パーシーとエステルは恋仲だったわけではなさそうですが、かなり親しくしていたのは確かなようなので、敵国で冷遇されるだろう彼女を救おうとしたりするかもしれないと思いました。もしくは、ギルがエステルに対する態度を変えて彼女を愛するようになった場合、パーシーととエステルの仲が良いことを知って嫉妬する展開もあるのではないかと想像をかき立てられてワクワクしました。

2話感想

エステルがギルに嫁いでからの人間の国であるハゼルバード王国と魔族の国であるヴィルヘルムの日常が紹介されていましたけど、ハゼルバードはかなりきな臭いなって感じました。王は体調が悪そうですけど、本当にそれだけか？と。邪魔者であったエステルがいなくなった隙に何か仕込んでいるんじゃないかって感じました。一方ヴィルヘルムは驚きました。民は魔族なので怖い見た目をしていますけど、こっちの方が人間らしいんですよね。ギルも真剣に政をしていますし。ただエステルに使えることになったミリィが不気味。ミリィは何か画策していそうですし、魔族の国も人間の国のようなゴタゴタがあるんだなって驚きました。ミリィが今後どう動くか注目したいです。
人間が魔族を嫌っているように魔族も人間を嫌っているという設定なので、夫であるギルも含めて誰一人として心を許せる相手がいないという状況でエステルが感じている不安が彼女の表情からヒシヒシと伝わってきて、胸が痛くなりました。人間に偏見がないというミリィが登場して、唯一の味方になってくれるのかなと思ったのですが、なんだか怪しい動きをしているので油断はできなそうです。ミリィの正体が非常に気になりました。
1話ではチラッとしか登場しなかったクレモンの人柄が明らかになり、ゆくゆくは王になるとは思えないダメっぷりにハゼルバート王国の未来が心配になりました。エステルの父である国王陛下はきちんとした人のようですが、体調がかなり悪そうで、エステルが見舞う間もなく亡くなってしまう可能性も低くない気がします。ギルとの関係が改善されたとしても、祖国のこともエステルは無視できないと思われ、問題が山積みの現状をどう解決していくのか楽しみになりました。

3話感想

今回のエピソードでは、ギルとエステルの心の距離がぐっと縮まったような感じがあって、何だか嬉しくなりました。その一方ではトロールがギルとエステルの仲を引き裂こうとしたり、緊迫感のある展開も味わえます。トロールは何か悪巧みをしていそうな雰囲気があるのですが、ギルとエステルの絆によって打ち勝って欲しいと思いつつ、ドキドキしました。
ハゼルバート王国も国王セドリックやエステルを支持する勢力と王妃カタリナを支持する勢力があるようですが、魔族も

みんながみんな魔王であるギルを支持しているわけではない点がリアルだと感じました。意外にもミリィが早々に罠を仕掛けてきましたが、そのおかげでギルがエステルのことを心配する展開になったので、結果的に仲が深まるのではないかと期待しています。

エステルが嫁いできた時はかなり冷たい態度だったギルですが、エステルの心情を思いやってくれたりと優しい一面が垣間見えて、ときめきました。これまでは現状に対して悲観的で、被害者意識が強い印象だったエステルもギルとの会話によって気持ちを切り替えることができたようで、グッと2人の距離が縮まりそうな予感がしてワクワクしました。

4話感想

このエピソードでは、牢にとらえられたミリィの罪を、何とか軽くしようとしてあげるエステルの優しさが伝わってくるのが印象的でした。しかし、そんなエステルの優しさとミリィの思いはすれ違ってしまい、結構切ない展開に進んでいくのはちょっと予想外でした。ギルも含めて、みんな切ない気持ちや葛藤を抱えているのが目立つ場面が多かった気がします。

ミリィは若い女性なので、エステルを陥れようとした動機は政治的なものや人間に対する恨みというよりもギルと結婚したことへの嫉妬かなと予想していましたが、最初は曖昧にされていた理由が最終的にはきちんと明らかになってスッキリしました。ミリィはエステルの存在がなくともギルと結ばれることはない立場だったようですが、もっと身分が高くてギルを慕っている女性がいる可能性は高いと思うので、今後もエステルを敵視する女性が登場しそうだと思いました。

エステルもギルもお互いに歩み寄って相手に対する理解を深めなくてはと考えるようにはなりましたが、しばらくは素直になれなかったりタイミングが合わなかったりですれ違うのではないかと予想していたので、2人が肉体的に結ばれたことが意外でちょっと驚いてしまいました。しかし、ミリィに向かって発した言葉を運悪くギルが聞いてしまうというアクシデントが起こってしまったため、やはりきちんと想い合う仲になるのはまだまだ先のようです。このことが原因で2人の関係が拗れてしまうのか、続きがとても気になりました。

5話感想

このエピソードでギルの優しさやエステルの奥ゆかしさが特にわかったのでその部分がとにかく良かったですね。今まで結構冷めた雰囲気を醸し出していたギルですが、何となくエステルにそこはかとなく優しく接しているようにも見えてとても好感が湧きました。最初の出会いの場面に比べるとなんとなく本当の夫婦のようにも見えてきたので、このまま関係を深めて互いの愛情を確かめ合って欲しいですね。

この作品のメインキャラギル魔王がとにかく凛々しくて格好いいですね。エステルと一緒に他愛もない話をしている時はどこか柔らかい顔を適度に見せてくれるのですが一度仕事となると一気に顔つきが変わり緊張感がのある凛々しい顔つきになるのでその点が興味深いです。でも魔王という立場にいるので、そうなってしまうのは仕方ないのかもしれませんね。ある種切り替えがはっきりしているのでとても魅力的です。

実は神経質だったという意外な一面がギル魔王の性質にあったことがわかったので、その点がとても面白かったですね。なんとなく魔王ですから、そういうところは大雑把なのかなと思っていたら正反対でした。エステルがそのことを聞いて意外そうな反応を示していたのも可愛かったです。やっぱり勝手な先入観でギル魔王のことを色々と決めつけてしまっていたということは読み手の側にもあったかも知れませんね。

6話感想

6話は色んな出来事がありました。
ギルは脱獄、エステルは空回り、クレモンはまともになり始める等。
その中で一番印象に残ったのはパーシーでした。
これまでのパーシーはエステルの味方であり、良識者という印象を持っていました。
しかし今回でその印象は崩れ去ったように思います。
最後の口ぶりから判断するに、魔族領への進撃はパーシーが画策したものであるかのよう。
一体コイツは何を企んでいるんだ？と気になりました。

ギルの気遣いがつらすぎます。あの去り際のキスはかっこよすぎです。自分が女性ならキュンキュンでしょうね。話もどんどん進んでいっており、ついに人間が魔族に侵攻を開始してワクワクしてきました。

7話感想

パーシーがここまで恐ろしい人物だとは思わず、驚きました。クセのある人物だと感じていましたけど、まさかここまでとは。中でも驚愕したのは7話でのギルとのやり取りです。ギルがエステルを大事に想っていることを、ほとんどの人は知りません。それはギルと長く接してきた側近達ですら同様です。しかしそれをパーシーは理解しており、さらに悪用までしたのですから。最後には大どんでん返しを喰らいますけど、敵ながら見事でした。

パーシーがクズすぎて、なかなかに面白かったです。悪役はこうでなくては。そして、ギルの危機にさっそうと現れるエステルもかっこよかったです。ギルとエステルが再会したときのやり取りもいいですね。

8話感想

パーシーに関する謎が解けてスッキリしました。イマイチ謎だったんです。何故そこまでパーシーは魔族を憎み、そして王国にとって不利になるようなことをするのかと。気になったのは最後に登場したセドリック国王とクレモン王子です。他国の王達をエステルは止められませんでした。セドリック国王達はどのようにして混沌とした場をおさめるのか、次の展開が楽しみです。

パーシーに関しては同情の余地はありますが、国を転覆させようとしていたことに変わりありません。それよりも、この混沌とした状況をどう解決するのか問うことです。とうとう国王や王子までできましたが、どのように場を収めるのか見ものですね。

9話感想

エステルの動向には驚かされました。ギルに好意を持っていましたし、ギルの正妻という座は人間との関係改善を目指すのに良いポジションでもあります。それを捨ててまで女王を目指すのかとビックリしました。
気になったのはパーシーの動きです。エステルが次期女王に立候補したとの報を聞いて憤っていました。戦争の顛末にも納得していないようでしたし、また何か画策するつもりなんだろうなと呆れました。

王子のお陰でなんとか戦いは終わりましたが、まさかエステルが次期女王候補になるとは思いませんでした。そして、エステルの問いに対してのギルの冷たい言葉。明らかにお互いに想っているのに、二人が一緒になれないのはじれったいですね。

10話感想

クレモンが爆弾を投げかけてきたように思います。もちろんクレモンに悪気はなく善意からなのはわかっていますけど、タイミングが悪すぎました。特に大きな爆弾と感じたのは、女王になってしまうとギルの妻にはなれないというセリフ。ギルのことを引きずっているエステルにとって、非常に辛いものであったことは間違いありません。エステルがどういう決断を下すのか見守りたいです。気掛かりなのは脱獄したパーシーです。エステルを逆恨みしているだけでなく、心理状態もまともではありません。どんな暴挙に出るのか気になりました。

ビートともお別れです。いろんな別れがあって、目まぐるしく日々が過ぎているのがわかります。辛い状況の中、神父のあの言葉は染みますね。王子もいい仕事をしてくれます。本当に女王になってしまうのか、ワクワクです。

11話感想

パーシーが短絡的な行動に出て驚きました。ギルの方でも怪しい組織が動き始めていて、もっと複雑な展開になると思っていたのです。それだけに、パーシーの脱獄事件が早々に終わったのは意外でした。気になったのはエステルを救った吟遊詩人がベルカ王家の次男ヨハンだったことです。突然縁談を持ちかけられ、エステルは戸惑っていました。しかしヨハンならうまくやっていけるのではないでしょうか。ハゼルバート王国の安定にも良い話ですし、両者の関係がどのように進展していくのか見守りたいと思います。

まさか吟遊詩人が、政略結婚を持ちかけてきた国の第二王子のヨハンだったとは。なかなかのイケメンで好印象ですが、なにか裏もありそうです。とにかく、ネックレスを持ってきてくれたのはグッジョブ！パーシーはもう退場でいいのでは？

12話感想

ヨハンの立ち位置が読めないですね。ベルカ国王は野心から言っていますが、実際人間側としても妙手だと思います。魔族との関係が微妙なのですから、人間国同士の関係が良好になるのは決して損ではありませんから。しかし、ヨハンはいまいち乗り気ではありません。とはいえ、婚姻を断られても、帰国しようともしません。何を考えているのかがわかりづらいんですよね。未だにエステルの傍から離れないのはどういうことなのか、気になりました。

いい人なのかと思えば、全部ぶち壊す発言。本当にヨハンがどういう人物なのかわからなくなってきました。ただ、エステルを気に入っただけなのでしょうか。絶対に何か裏があると思うのですが、全く読めません。久々にギルと会えることになりましたが、どうなるのか楽しみです。

13話感想

ヨハンの立ち位置が読めないですね。ベルカ国王は野心から言っていますが、実際人間側としても妙手だと思います。魔族との関係が微妙なのですから、人間国同士の関係が良好になるのは決して損ではありませんから。しかし、ヨハンはいまいち乗り気ではありません。とはいえ、婚姻を断られても、帰国しようともしません。何を考えているのかがわかりづらいんですよね。未だにエステルの傍から離れないのはどういうことなのか、気になりました。

いいところで終わってしまった！このままキスすることは、今の二人の関係ではないでしょうが、ちょっと期待しちゃいますね。エステルも口が達者になって成長していますし、二人の今後が楽しみです。

14話感想

エステルの積極的な行動には驚かされました。これが最後になってしまうとはいえ、ここまでの行動をするとは想定外。それだけギルに対する想いが強いのだと、改めて実感しました。

気になったのは、ヨハンがこれからどう動くか。ギルとエステルの関係がただならぬものだと気づいているように感じました。このままエステルと結婚するとは考えにくく、今後の展開から目が離せません。

15話感想

エステルの決断には驚かされました。状況から考えて、人間の国は団結すべきだと分かっているはずです。それでもなお、縁談を断ろうとしているのですから。それだけギルを深く愛しているのだろうと感じました。

気になったのはジェマです。ギルは断りましたけど、ジェマには通じませんでした。全く諦める様子はないですし、どのようにアプローチを続けるのか注目したいと思います。

16話感想

パーシーがなぜあのような行動をしたのかわかってスッキリしました。
実は、かなり疑問だったんです。魔族を恨む気持ちはわかるとしても、なぜエステルを裏切るような行動をとったのだろうかと。しかし、結末はとても悲しいものでした。

パーシーを処分した魔族の存在が気になりました。魔族たちの襲撃を食い止めることはできたものの、まだ敵対勢力が残っているということなんですよね。彼らが今回の襲撃失敗で諦めるとは思えず、これからも油断できない展開が続くのではないかと不安に感じました。

17話感想

ヨハンの判断には驚かされました。遺体を解剖するという行為は、死者への冒涜と受け取られかねず、ギルが抵抗を覚えるほど忌避されるものです。それにもかかわらず、あの一瞬で決断してしまうヨハンの冷静さと決断力は印象的でした。

宵の鴉が気になります。ギルに何らかの確執を持っているということは、今後もギルを狙い続けるのではないでしょうか。次にどのような手を打ってくるのか、注目していきたいところです。

18話感想

パーシーの遺体が、新たな謎を呼び起こしたように思います。パーシーが魔族に関わるトラブルに巻き込まれたことは間違いないと思われますが、その背景にはリリシア王国に属する者の関与もあるのではないかと感じました。闇魔法に精通した人物が関わっている可能性は高く、この事件は一筋縄で解決しないように思います。

ヨハンの動向が気にかかります。飄々とした態度のため分かりにくいものの、エステルに対して強い執着を抱いている様子が見受けられました。エステルとの別れを容易に受け入れるとは考えにくく、今後どのような行動に出るのか注目したいところです。

19話感想

ギルの年齢に驚きました。これほど年齢と寿命に大きな差があるとなると、エステルとの結婚生活は決して簡単なものではなさそうです。仮に20年が経過すれば、エステルの容姿には相応の変化が現れるでしょう。しかし、その一方でギルは長命種であるため、ほとんど変わらない姿を保ち続けるはずです。もちろん、愛情と寿命の長さは別の問題ではありますが、この事実が明らかになったことで、二人の未来を素直に応援しにくくなったと感じました。今後、この寿命の差という問題にどのように向き合っていくのかも気になるところです。

フィンクロー伯の動向が気になります。人間に対する強い嫌悪感だけでなく、ギルに対しても複雑で危険な感情を抱いていることがうかがえました。あれほど強い敵意を見せておきながら、このまま何も行動を起こさないとは考えにくいでしょう。フィンクロー伯がどのような行動に出るのか、注目したいです。

20話感想

孤島の洞窟の封を解く条件が気になりました。洞窟には、双の血を引くのみという文字が刻まれていました。つまり、この封印は王族であっても誰も解くことができない、極めて特殊な条件が設けられていたということです。実際、リリシア女王は封を解くことは出来ませんでした。そして、この条件を満たせるのはギルだけです。まるで最初からギルがこの場所を訪れることを見越して作られたかのような仕掛けに感じられました。だからこそ、この洞窟の奥には一体何が眠っているのかと興味がわきました。

闇魔法とギルがどんな関係があるのか気になりますね。それとなぜあのような封印の条件にしていたのかは気になるところです。本当はギルの母が、ギルに闇魔法を授けるために残していたのではないかと思いました。

21話感想

ターニャがいなければ、リリシア王国は誕生していなかったのかもしれませんね。それだけ、ターニャの存在は異質だったように思います。ただ不満を爆発させて立ち上がっていたなら、あっという間に鎮圧されていたでしょうから。仲間たちの不満を、よくぞここまで抑えることが出来たものだと感心しました。

魔王が島にいたことが気にかかります。まるで島に身を隠しているかのようであり、違和感を覚えました。どんな事情があって島を訪れたのか、その理由に注目したいです。

22話感想

ターニャはターニャで辛い立場だったのだと気づかされました。元々王侯貴族等ではありませんし、いきなり国を治めるように言われても簡単にできるものではありません。そういった重圧に押しつぶされそうになっていただけに、素直に悩みを打ち明けられるアギの存在は大きかったんでしょうね。

アギのその後が気になりました。リリシア国としては、ターニャとの関係を抜きにしても魔族であるアギがすぐ近くの島にいることを認められないでしょう。自分一人ならともかくギルもいる状況で、アギがどのような行動を起こすのか注目したいです。

漫画全巻の部屋
by ㈱グリュックス